**【低学年推奨】ＳＮＳ教育プログラム　レッスン２（ユニット１）学習指導案**

１　単元名　　　　　　　情報の取扱いについて考える

２　ユニット名　　　　　「いやなしゃしん」

３　本時のねらい　　　　他者の気持ちを考えて写真を取扱うことができる。

４　本時の展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 構成 | 学習活動 | 指導上の留意点 |
| 導入 | 〇予備発問  発問：写真を撮ったことがある人？  　　　ある　／　ない  発問：写真を撮られたことがある人？  　　　ほとんどの児童が、あると回答する。 | ・児童が実生活の中で、写真を撮ったり撮られたりする場面について発問し、興味  ・関心を高める。  ・めあて「とられたらいやなしゃしんについて考えよう」「写真を撮るときは、どう  　したらよいか考えよう」 |
| 展開 | ○写真を撮られたら嫌な気持ちになるものについて考える。  ○５つの写真を撮られたと想像して、どのような気持ちになるか考える。  ○写真①～⑤を「いやだな」「ちょっといやだな」「いやじゃない」に分類して、ワークシートに記入する。  〇「いやだな」と思った理由を考えて、ワークシートに記入する。  例）・④は、へんなかおを見られると、笑われ  　　 そうでいやだ。  　 ・⑤は、見られたくないものが置いてあった  りして恥ずかしいから。  ○班で「いやだな」と思った理由を話し合う。 | 発問：あなたが、友だちからしゃしんをとられたら、「いやだな」と思うものはどれでしょうか。  ・５枚の写真を黒板等に示し、イメージをつかみやすくする。  ・作業が進まない児童には、友だちを一人想像するように声かけする。  ・一人一人の考えを尊重しながら、意見を共有して話し合う。（班、学級） |
| まとめ | ○本時のまとめと振り返りを行う。  ・学習用タブレットで写真を撮るとき、どう使ったらよいか考える。  例）・相手に許可をもらってから写真を撮る。  　 ・相手の気持ちを考えて写真を撮る。 | 嫌な気持ちになる写真を撮らない、勝手に写真を撮らない。  写真を撮るときは、相手の許可を得ることが必要。  ・写真を撮るときの、正しい方法を伝える。  ・児童の実態に合わせて、補助発問で学びを広げる。 |

５　指導の手引き

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 構成 | 学習の流れ | 教師の発問・指示 |
| 導入 | 写真を撮ったり、撮られたりする場面を想起し、本時の学習に対して興味・関心を持つ。 | 写真を撮ったことがある人？ |
| 写真を撮られたことがある人？ |
| 撮られた自分の写真を見て、嫌な気持ちなったことがある人？ |
| めあて「とられたらいやなしゃしんについて考えよう」を設定する。 | 今日は、撮られたら嫌な気持ちになる写真について考えましょう。 |
| 展開 | 発問について、自由に考える。 | あなたが、友だちから写真を撮られたら「いやだな」と思うものはどれでしょうか（５枚の写真を黒板等に示す）。 |
| 写真①～⑤を「いやだな」「ちょっといやだな」「いやじゃない」に分類して、ワークシートに記入する。 | 写真①～⑤のそれぞれを「いやだな」「ちょっといやだな」「いやじゃない」のどれに当てはまるか考えて、ワークシートに書いてください。 |
| 「いやだな」と思った理由を考えて、ワークシートに記入する。 | 「いやだな」と思った理由を書きましょう。「いやだな」が１つも無かった人は、「ちょっといやだな」と思った理由を書きましょう。 |
| 班で嫌だと思う理由を話し合う。 | 「いやだな」と思った理由を、班で発表して、話し合いましょう。 |
| 学級で意見を共有する。 | 意見を発表してください。 |
| **☆補助的な発問や活動（時間配分等に応じて）**児童の実態に合わせて、補助発問で学びを深める。 | 写真ではなく、見られることはどうでしょうか？写真を撮られることと比べて嫌な気持ちになりますか？見られるのと写真を撮られるのは、違うのでしょうか？ |
| まとめ | ワークシートのまとめに、考えたこと、感じたことを書く。 | この時間で考えたこと、感じたことをワークシートのまとめに書いてください。 |
| （発展）児童の実態に合わせて、補助発問で学びを広げる。 | もし、「いやだな」と思う写真を、友だち  がインターネットに載せたら、どう思いますか？何がいやなのでしょう？  逆に、自分が友だちを撮った写真があったら、それはインターネットに載せてよいと思いますか？おもしろい写真なのですが、それでもダメなのでしょうか？ |
| 本時の学習を、これまで出された児童の言葉を生かしてまとめる。 | 嫌な気持ちになる写真を撮らない。勝手に写真を撮らない。写真を撮るときは相手の許可を得る必要がある。 |

６　実践するにあたって

（1） 概要

・　インターネット上に発信された画像等は、悪意ある意図的な発信でなくても、大きなトラブルを引き起こし責任問題に発展することがある。本授業では児童の発達段階に合わせて、友だちから写真を撮影される５つの例を基に話し合うことによって、相手が嫌な気持ちになる写真を撮らないこと、人によって撮られて嫌な気持ちになる写真は異なることを学ぶ。また、発展的に画像をインターネットに公開することの危険性についても学ぶことができる。

（2） 指導の方向

・　自分の望んでいない写真を撮られたときの嫌な気持ちを共有し、自分がされたら嫌なことを他者にしないことを学ぶ。

・　５つの写真を基にした話し合いによって、撮られて嫌な気持ちになる写真は人によっ

て異なることに気付かせ、他者の写真を勝手に撮ってはいけないことを学ぶ。

・　児童の発達段階に応じて、ＩＣＴ機器で撮影した写真は保存・複製・公開される危険

があることにも触れ、ルールやマナーを守って撮影することや画像を取扱うことを理

解させたい。

（3） 工夫すると良い点

・　肖像権（無断で撮影されたり、それを公表されたりされないように主張できる権利）の一方的な教え込みにならないよう注意する。そのためにも、児童が自由な発想で話し合うことを重視する。

・　嫌な気持ちになる写真を撮られたときの対処方法として、学校の先生や保護者に相談することを伝える。

・　学級の実態に応じて、５つの写真を「いやだな」と感じる順に並べ、なぜその順にしたのかをグループ内で話し合う活動もできる。自分と同じ並びであっても、理由は異なることが予想される。

・　５つの写真について、学級の実態や時間配分等に応じて「きがえのとき」、「みずぎすがた」、「おこられているところ」、「なきがお」、「くしゃみのかお」を追加したり、入れ替えたりしてもよい。

（参考）10枚の写真

②たべているときのじぶん

③じぶんのうしろすがた



①じぶんのねがお

⑤じぶんのへや

④じぶんのへんなかお



⑦みずぎすがた

⑧おこられているところろ



⑥きがえのとき

⑩くしゃみのかお

⑨なきがお

